

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	2年次後期	1	講義・演習	30時間
達 目 標	1.子どもに多い症状とその看護について理解する。 2.子どもに多い症状・治療に応じた看護や健康状態・発達段階に応じた看護について理解する。					講師
						看護師①
						看護師② 看護師③
授業計画						
1回	子どもにおける疾病の経過と看護：慢性期・急性期・周手術期・終末期における子どもと家族(養育者の看護)					看護師① (10時間)
2回	症状を示す子どもの看護①：啼泣・不機嫌、疼痛、呼吸困難、チアノーゼ					
3回	症状を示す子どもの看護②：ショック、意識障害、痙攣					
4回	症状を示す子どもの看護③：発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水、浮腫					
5回	症状を示す子どもの看護④：出血、貧血、発疹、黄疸					
6回	疾患を持った子どもの看護①：代謝性疾患(I型糖尿病)、免疫・アレルギー疾患と看護(食物アレルギー・喘息・若年性突発性関節炎・紫斑病)、					看護師② (14時間)
7回	疾患をもった子どもの看護②：内分泌疾患(成長ホルモン分泌不全性低身長)、皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)、感染症					
8回	疾患をもった子どもの看護③：呼吸器疾患(肺炎)、循環器疾患(ファロー四徴症・川崎病)、消化器疾患(口唇・口蓋裂、食道閉鎖症)					
9回	疾患をもった子どもの看護④：消化器疾患(肥厚性幽門狭窄症・鎖肛・腸重積・外鼠径ヘルニア)、悪性新生物(白血病)					
10回	疾患をもった子どもの看護⑤：腎・泌尿器疾患(ネフローゼ症候群)、神経疾患(けいれん、脳性麻痺)、運動期疾患(先天性股関節脱臼、骨折)					
11回	疾患をもった子どもの看護⑥、耳鼻咽喉疾患(中耳炎・アデノイド増殖症・口蓋扁桃肥大)、精神疾患、発達障害					
12回	事故・外傷と看護、虐待を受けた子どもの看護					
13回	新生児期の疾患と看護①：染色体異常					
14回	新生児期の疾患と看護②：低出生体重児					
15回	新生児期の疾患と看護③：新生児仮死・高ビリルビン血症					
評価方法	修了試験 選択肢又は論述問題による筆記試験 看護師①(35%)、看護師②(45%)、看護師③(20%)を総合して評価する					
教科書	看護師①：系統看護学講座 専門分野 小児看護学①小児看護学概論小児臨床看護学総論 医学書院 看護師②：系統看護学講座 専門分野 小児看護学②小児看護学各論 医学書院 看護師③：系統看護学講座 専門分野 小児看護学②小児看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学②母性看護学各論 医学書院					
備考	予習においてはテキスト、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。復習においてはテキスト、講義資料・参考文献を用いて学習した内容を整理し、理解を深める。					